

## 報告

# 演習授業におけるマイクロブログの考察

## Consideration of Microblogging Service for Class・Work

藤本 孝一郎\*

ko-ichiro, FUJIMOTO\*

**概要:**短期大学の PC 利用授業の支援を目的に Web 上のミニブログサービス・サービスの利用可能性を調査し、活用のための試行を実施した。事後のコミュニケーションによる各回の授業実践での活用に期待できる。

### 1. はじめに

従来、種々の Web 上の情報サービスを授業支援ツールに活用してきた。短期大学の過去の授業実践では、Web ツールを活用した共同作業には一定の効果を得た。本年度は学習者間の相互理解の視点から、授業と異なる新たなコミュニケーション空間を実現する Web サービスの活用を考えた。

### 2. 目的と準備

#### 2.1 目的

短期大学の PC 利用授業での支援に Web 上のミニブログサービス・サービスを調査し、活用のための試行を実施した。Web 上で Google をはじめ代表的なポータルサイトの関連サービスを調査し、新しい視点での活用を探るため少人数間で試行を目的とした。

#### 2.2 調査と準備

##### 2.2.1 ミニブログサービス

Web 技術の進展は様々な興味深いサービスを実現している。近年はブログサービスの進展が著しく、代表的なものの一つに「Twitter (ツイッター)」(注1)がある。個々のユーザが各人の Web ページ (一種のブログ) に「ツイート」(Tweets, つぶやき, 発言)を投稿し、比較的ゆるいコミュニケーションを可能とするサービスである。Twitter での投稿は、日常の考えや、感想などを「つぶやき」のような短い文章で入力する。

Twitter ではメールアドレスなどを登録すれば無料で利用できる。加入すると自分専用の Web ページが作成され、そこで1回140文字以内の発言を投稿する。次に投稿画面を示す。(図1)

---

\*城西短期大学ビジネス総合学科



図 1. 「投稿画面 (リプライ(Reply))」 (twinavi)

また「宛名」を指定する書式も用意され、チャットのように利用することもできる。さらに「フォロー」(Follow)と呼ばれる機能で他のユーザを登録すると、そのユーザの投稿を自分のページに表示させることも可能である。フォローすると相手側に通知されるが、Twitterのユーザ間のつながりはゆるく、知らない人でも気軽にフォローして良いとされている。

こうしたタイプのブログは「ミニブログ」あるいは「マイクロブログ」(注2)と呼ばれ、Twitterはその魁として最も注目されている。さらにサービス提供サイトも増え、新しいマスメディアとして採りあげられ浸透しつつある。特にビジネス分野での活用は注目すべき点である。

今回は試行のためにミニブログ・サービスを提供する他の Google をはじめ代表的なポータルサイトのいくつかの特徴を Web 上で調査した。

## 2.2.2 準備

本年度前期で、調査と試験的な利用を行った。城西大学のコンピュータ教室(PC 40 台、OS:WindowsVISTA)で城西短期大学の PC 利用授業で行った。ミニブログ・サービスは、無料で公開されている Twitter 社サイトを利用した。他に Google サイトのサービスも利用した。サイト利用が可能な、後期コンピュータ会計授業の一コマをとりあげた。また試行のため少人数を対象としクラスから数名の了解を得た。

コンピュータ会計の授業では簿記・会計理論の基礎知識の上で会計実務と会計アプリケーションソフトウェアの操作指導を実施する。アプリケーションによれば手作業の場合と比べて会計処理作業そのものが効率化できる。しかし会計ソフトウェアの操作能力よりも会計理論と実務会計の違いに関する理解が最も重要である。学習論点の理解も手作業による会計業務とコンピュータ会計の流れの比較に重点がある。そのためテキストでは明示的に説明できない学習者からみた素朴な疑問点に応える場面が多い。そこで授業でのコミュニケーションに効果が期待できるミニブログ・サービスの利用に試行の目的を置いた。

## 3. 実践

### 3.1 試行

前期の調査とサンプルとしての Twitter サイトの利用を経て、後期、コンピュータ会計授業の 6 週経過時点で 3 回にわたり実施した。サイトの設定は招待制として非公開とし、新規登録のためメールアドレスを利用する。Web サイトの紹介、メール設定、ログイン方法、投稿指導など授業後半で 3 名の学習者を対象に試行を行った。時間的な制限や、各人ごとのソフト操作能力のばらつき等を考慮し、操作指導・説明を進めた。

### 3.2 結果

教授者のテーマページとしての Twitter サイトを事前に形成し、学習内容に関する発言をスタートする。各学習者が自身のサイトからツイート投稿してゆく。主としてコンピュータ会計の操作にかかわる内容での疑問点を呼びかける（リスト）形となった。次に試行過程の一部を示す。（図 2, 3）



図 2. 「教授者ホーム（疑問点の呼びかけ）」

(Twitter)



図 3. 「学習者ページ」（応答と呼びかけ）

(Twitter)

## 4. 考察

### 4.1 マイクロブログ利用に関して

Twitter では基本的につぶやき（独り言）というゆるいコミュニケーションを提供する。過去の実践での経験からみると、各回授業テーマに関して発言していくチャット（Web chat）よりも発言が散漫になるため授業に即した利用は効果が薄いように感じられた。しかしクラス中での共同作業の方向ではなく、参加者間で、ある種の「自由さ」を実現する空間（ミニブログ）が形成されていることに注目した。授業と完全に無関係ではなく、関係しながら各回の学習内容と非同期な場面で、ある種の疑問点での共感を理解する（得る、楽しむ）場面—いわば「ゆるい」—は興味深い。この点でミニブログは、従来、授業で活用してきた—グループウェア、

チャット、トラックバック、ブックマークレット、RSS、SNSのような—いわば「濃い」コミュニケーションにはない特性も学習で活かせる可能性がみてとれた。学習者の興味や共感するトピックの様子が窺うことができた。リアルタイム検索のワード・トピック利用など教授者にも活用できる可能性もある。

## 4.2 展開の方向

教授者・学習者を授業とは非同期なコミュニケーションの授業実践での活用が考えられる。ところでWEB上の多様なサービスを無料で利用できるGoogleでは、バズ(buzz)というTwitterと類似のミニブログサービスを始めている。バズ(buzz)ではバズ・写真・リンク、その他のさまざまなアイテムをGmailの連絡先と共有できる。チャットと異なるフォローする簡易なツールとしても利用できる。授業実践でも利用することの多いGoogleサイトでの利用に、ミニブログの利用を加えてみることも考えられる。



図4. 「バズ投稿画面」(Gmail/Google サイト)

## 5. おわりに

毎年、各種WEB支援サービス・ツールが登場している。次年度では、今回得られた知見を基にマイクロブログを少人数制授業に適用したい。まだ本学の情報システムとの連携手法の開発と、評価手法の探求を進めてゆきたい。

### 【注】

(注1) 呼称につき「ミニブログ」を文中に、「マイクロブログ」を英文表題にのみ用いた。

(注2) Twitterは2006年7月にObvious社(現Twitter社)によって英語版のサービスが開始され、2008年に他言語版として初の日本語版サービスが開始された。

### 【参考文献】

[1] 総務省編「情報通信白書平成21年版」総務省ホームページ(2009年)

[2] 関根・上野・秋田「Twitterの本」インプレスジャパン(2009年)

[3] 神田敏晶「Twitter革命」ソフトバンククリエイティブ(2009年)

(www) 「Google」<http://www.google.co.jp/>. 「Twitter」<http://twitter.com/>.

「twinavi」<http://twinavi.jp/>. 「総務省」<http://www.soumu.go.jp/>

他

(Received March.3,2010)